

八学大東北代表決定戦へ

青大を5-2、大道完投

北東北大学野球

北東北大学野球連盟は3日、岩手県一戸町総合運動公園野球場で、明治神宮大会東北地区代表決

定戦への出場校を決めるプレーオフを行った。秋季リーグ戦の勝率が同率2位で並んでいた八戸学院大と青森大の県勢対決は、八戸学院大が5-2

で青森大に勝利。リーグ戦優勝の富士大とともに



青森大打線を2失点に抑え、完投した八学大の大道。岩手県一戸町総合運動公園野球場

大道「こころで終わるわけには」

ピンチで粘り10K

ヒート

134球目。最後の打者相手に10個目の三振を奪つと、八戸学院大の主戦大道は右拳を突き上げ雄たけびを上げた。「こころで終わるわけにはいかなかった」。珍しく派手なガッツポーズで、勝利の喜びに浸った。

決して本調子でなかった。対する青森大の三浦監督も「リーグ戦の疲れ

が抜け切っていないかった」とみている。それでも立ち上がりから直球を見せ球にスライダーやカットボールを織り交ぜ、要所をしのいだ。

ヤマ場は2点差に追い上げられ迎えた六回。無死三塁のピンチでギアを上げた。ファウルで粘る5番打者相手に変化球で空振り三振。続く6番打者がスクイズを仕掛けても動じなかった。「強いボール」でバットを押し

代表決定戦出場を決めた。八戸学院大は一回に3点を先制して主導権を握ると、四、七回にもそつなく加点しリードを広げた。先発の主戦大道4年・春日部共栄出が青森大の反撃を2点に抑えた。

明治神宮大会への出場権を懸けた東北地区代表決定戦は24、25日、弘前市はるか夢球場で行われる。(松田啓志)

1年森本、光る打と足

盗塁と足でも相手バッテリーに揺さぶりをかけ、勝利に貢献した。秋季リーグ戦の途中から起用されるようになった。「プレーだけでなく、気持ちの強さも買われていた」と冷静に自己分析。「4年の先輩たちと長く野球をしたい。頑張らない」と東北地区代表決定戦へ向け奮起を誓った。

〇：八戸学院大のスタメンに唯一1年で名を連ねた8番森本(大阪商大高)が打と足で見せ場をつくった。「先手を取りたかった」という二回の先制打を含む2安打。2込み、投飛による併殺に仕留め、試合の流れを大きく引き寄せた。「4年ばかりの内野陣に『とにかく腕を振れ』と言われた。開き直って放つのが良かった」。正村監督は「あそこが勝負の分かれ目。何とか粘ってくれた」と大黒柱の踏ん張りたたえた。

次は明治神宮大会につながる東北地区代表決定戦が待っている。「再調整し、球の質に磨きをかけてい」と大道。最速150kmを誇るプロ注目投手は、26日の運命のドラフトを待つ。(松田啓志)